

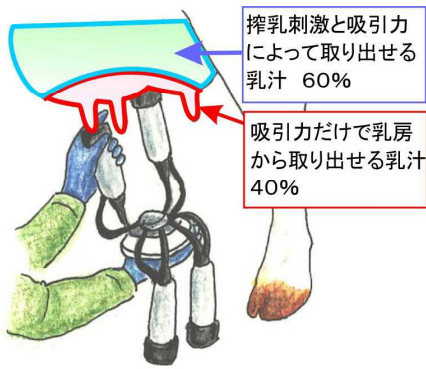
乳質改善はもうかる その二 乳頭先端の保護

乳頭先端が傷むと、菌が容易に乳房内に侵入しやすくなります。その結果、乳房炎になるリスクが高くなります。

乳頭先端を保護し、乳房炎になりにくい管理を心がけましょう。

一 乳が搾られる仕組み

ミルカーの吸引力のみで搾乳できるのは、乳房内の約四割の乳とされています。残りの六割の乳は、前搾りや乳頭清拭などの乳頭の刺激により、脳から放出されたオキシトシンというホルモンの働きによって、乳房に押し出された乳をミルカーによって吸い出されたものです。



図一 牛乳の排出の仕組み

二 乳頭先端を確認しましょう

乳頭先端の状態を観察することにより、搾乳手順やミルカーが正常に稼働しているかを判断できます。

最後の一滴まで搾ろうと、ミルカーを掛けすぎていると、乳頭口が開いたり、突出・ひび割れするなど、乳頭先端が傷つきます(写真一)。



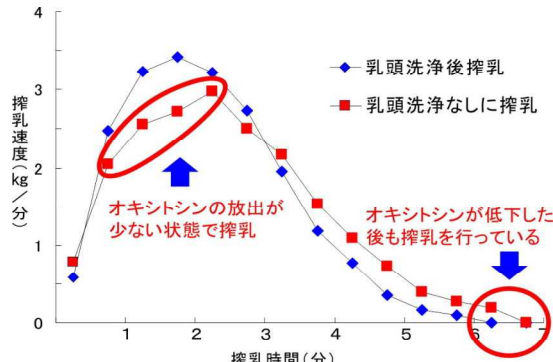
写真一 傷んだ乳頭先端

三 乳頭先端の保護対策

①ミルカーを掛けすぎない

オキシトシンは刺激が始まっておよそ六〇〜九〇秒後にピークに達し、その四〜五分後、オキシトシンの量は徐々に減少します。この限られた時間内で搾乳を行わなければ過搾乳となり、乳頭先端の負担は大きくなります。

前搾りを行わなかったり、搾乳刺激が弱いと、オキシトシンの分泌が少なく、ミルカーの吸引力で無理に搾乳するため、搾乳時間が長くなりやすいです。



図二 搾乳刺激の有無による搾乳速度の変化 (SAGI, Rら(1980) H12年度南根室地区農業改良普及推進協議会より引用)

②定期的なライナーゴムの交換

ライナーゴムを交換時が過ぎても使い続けると、弾力性が低下し、乳頭のマッサージ効果が低下し、過搾乳の原因ともなります。メーカー指定の使用回数に従い、定期的な交換をしましょう。

③ストレスを与えない

牛を叩いたり、怒鳴りつけたりして牛に恐怖感を与えたり、不適

切な搾乳によって牛が痛みを感じると、オキシトシンの働きが抑制されます。その結果、長い時間ミルカーを掛けることになるので、乳頭先端を痛めます。次のことに注意しましょう。

- 怒鳴ったり、棒で叩いたり、足で蹴って、牛を起き上がらせたり、移動させる
- 牛舎を走り回ったり、大きく手を振る
- 牛の死角(真後ろ)に立つ
- ミルカーの設定真空圧が高すぎる
- 真空圧の変動の多い搾乳(マシンストリップング、ライナーズリップ、エアをたくさん吸わせでの装着)
- 長時間パーラー待機室に入れておく
- 搾乳従事者の搾乳作業手順が統一されていない

内容に関してご不明な点がありましたら、普及センターまでご連絡下さい。(平成二六年五月)